

序

『政治学研究』第60号を皆様にお届けできることを、嬉しく思います。

この『政治学研究』は、主に慶應義塾大学法学部政治学科の研究会に所属する学部学生が寄稿する研究論文集です。投稿論文は学生組織である政治学科ゼミナール委員会を通じて募集されますが、法学部の教員が組織する法学研究編集委員会、および私たち政治学科学習指導によって監修されます。編集は、慶應義塾大学出版会が行ないます。そして本誌に投稿しようとする学生は、事前に法学部教員の指導と推薦を受けなければなりません。つまり『政治学研究』は事実上、大学組織が刊行する「紀要」と呼ばれる学術雑誌のひとつです。大学図書館でも、大学院生や大学教員などの研究者が寄稿する他の紀要と同じように扱われ、所蔵されます。

このように『政治学研究』は、法律学科における『法律学研究』とともに、研究者や専門職を志す学部生が自らの研究の成果を世に問う最初のステップとしての役割を、法学部において果たしています。実際、本誌に論文を投稿した後、大学院に進学し、研究者や専門家になった人もたくさんおります。

近年、社会変動のなかで大学学部教育の意義やあり方が改めて問われています。特に就職活動をめぐる状況の急激な変化により、3・4年生の専門課程におけるゼミや卒業論文の位置づけが揺らいでいるように感じます。そうであるがゆえに、学部生が自らの研究の成果を世に問う機会としての『政治学研究』の重要性はますます高まっているのではないのでしょうか。今号に寄稿された皆様が、私たちの社会の知の系譜を受け継ぐ、優れた人材として飛躍することを願っております。

最後になりましたが、政治学科ゼミナール委員会、法学研究編集委員会、慶應義塾大学出版会を始め、本号の刊行にご尽力された方々に、厚く御礼

ii 政治学研究60号（2019）

を申し上げます。

2018年12月2日

法学部教授・政治学科学習指導

塩原 良和